

## 平作川調査出現生物のまとめ

横須賀市自然・人文博物館

学芸員 萩原清司

### 〈確認動物種〉

#### St. 1 (三面護岸区域)

貝類：カワニナ

甲殻類：ミナミテナガエビ

昆虫：シマアメンボ、フタスジモンガラカゲロウ  
ガガンボの一種、ヘビトンボ、アサヒナカ  
ワトンボ、ダビドサナエ、オニヤンマ、ヤ  
ブヤンマ、コシボソヤンマ、モンキマメゲ  
ンゴロウ、

◎出現はシマアメンボとモンキマメゲンゴロウを除き幼虫

魚類：アブラハヤ、オオヨシノボリ、シマヨシノボ  
リ (粘液胞子虫感染個体)

#### St. 2 (大楠登山道)

甲殻類：サワガニ、ミナミテナガエビ

昆虫：シマアメンボ、フタスジモンカゲロウ、  
ヘビトンボ、ガガンボの一種、ヤブヤンマ

◎出現はシマアメンボを除き幼虫

魚類：アブラハヤ、オオヨシノボリ、シマヨシノボ  
リ

### 解説と評価

全体として、先月より続く少雨傾向の影響があり、流量は少  
なく河床には泥の体積が見られた。

また、St.1、St.2ともに、はじめての記録となる南方系のテナ  
ガエビ類であるミナミテナガエビが確認され、温暖化の影響が  
示唆された。生物指標から見た水質環境としては、「きれい」  
な水の指標とされるフタスジモンカゲロウやヘビトンボが確認  
され、良好な状態が維持されていると考えられる。

St.1では、これまで継続して観察されたサカマキガイが見ら  
れなかった。アブラハヤの幼魚が多数確認された。3面護岸の  
環境に泳力の弱い幼魚が多数生息していたことは、調査前から  
続く少雨傾向によって流れが弱くなっていたことに起因すると  
考えられる。また近年県内各地で発生が確認されているヨシノ  
ボリ類の粘液胞子虫に感染し腹部が異常に膨満した個体が平作  
川から初めて確認された。



平作川の水生生物たち



ミナミテナガエビ



オニヤンマの幼虫



ヤブヤンマの幼虫

St.2 では、前年の台風によって流入した土砂が淵を埋めた後、大きな出水がないことから河床が全体に平坦となっていて、物理環境の多様性に乏しい状態であった。このことは、水生昆虫の生息に少なからず影響しているものと思われ、例年と比して出現種類が少なかった。平成 27 年の横須賀市の調査\*により初記録として報告されているオオヨシノボリが本調査でも採集された。

オオヨシノボリは同所で継続的に採集されていることに加え、成魚・幼魚ともに採集されたことから、安定的に個体群を維持していることが推察された。



コシボソヤンマ幼虫



粘液胞子虫に感染したシマヨシノボリ



オオヨシノボリ幼魚